

1. 事業実施の方針

1997年に京都府からの呼びかけにこたえて事業がはじまり、2002年にNPO法人となった地球デザインスクール。定款に掲げている法人のミッション「地球環境の破壊を防ぎ、後世に明るい未来を伝え残す」を果たしていくために必要な事業を、丹後地域を中心に展開する。

2. 事業の実施に関する事項

1) 環境教育の拠点である府立公園を安定的に運営し、集客力・波及力向上につとめる

京都府との協定に基づき建物等の構造物や草地、畑、森等の園地管理と、宿泊や体験プログラムなどの運営を行う。

多くの方に利用される公園として、獣害対策を含め景観整備に力を入れるが、その際に環境教育拠点にふさわしい手法で行うものとする。後述するプログラムの充実とあわせて、集客目標は、来園者50,000人/年、宿泊者2,000人/年とする。

2) 環境学習プログラムの実施と充実

(1) 丹後を中心にした環境学習プログラムの充実

京都教育大学や京都府立大学などの研究機関や、NPO法人C・C・C富良野自然塾をはじめとする自然塾メンバー、YMCAやハローウッズなど環境学習、自然体験活動を行っている団体との協力、連携によりプログラム開発や既存プログラムの質の向上につとめる。

波見地区の住民グループや世屋地区を拠点に活動している団体とともに進めている「里地里山ツアー」をより深め、地域密着型のプログラムの形をつくる。

プログラム実施の際の安全管理にも力を入れ、挑戦的な内容を安全に実施できるようにつとめる。

下記の既存プログラムは、自主企画をして募集型で行う場合と、公園利用団体等との打合せによってカスタマイズして行う場合がある。年間の公園プログラム参加者数目標は、6,000人とする。

(京都自然塾)

脚本家・倉本聰氏監修の富良野自然塾をモデルにした環境学習プログラム。森の教室、石の地球、地球の道からなる内容をインストラクターが感動をもって伝える。

雨の日や出前授業など、コースを利用しない自然塾プログラムも提供可能。

(森の楽校)

間伐やもやかき、下草刈りや笹刈りなど季節に応じた森づくり活動の一部を体験で行う。

(森探検・ナイトウォーク)

園内等をスタッフのガイド付きで散策。生き物観察など、実施の季節や対象によって時間や内容に変動あり。

(海の楽校)

磯観察や砂浜観察など海での活動を行い、オプションで顕微鏡でのプランクトン観察なども行う。

(宿泊体験プログラム)

京都市内など都市部の小学生を主対象にするもの、丹後など近隣の小学生を主対象にするもの、発達障害の子どもを主対象とするものなどを実施。いずれも森、里、海での季節に応じた自然体験学習を、宿泊を伴う形で実施する。

(どんぐりようちえん)

未就学の幼児とその保護者を対象にした自然体験活動を実施する。

(ビジットプログラム)

「環境問題について」や「森について」など、学校や団体の要望に応じて、スタッフが先方へ出向いてプログラム提供を行う。

(2) 宮津・竹の学校事業の実施

大学や行政、企業、団体などこれまでも共に活動してきた組織と、橋立風鈴を中心に手ぼうきなどの竹を活用する活動を継続実施する。

特に橋立風鈴については、商品化あるいはプログラム化できるようつとめる。

(3) コネクト三TAN地球育ミュージアムへの参画

琴引浜鳴き砂文化館、兵庫丹波の森協会、コウノトリ文化館、山陰海岸ジオパーク館など、丹後・丹波・但馬の三丹地域にある施設が互いにつながり、情報交換や研修、合同事業の実施などを通して公園の知名度向上や集客力向上に努める。

3) 組織基盤の強化

指定管理業務に依存しない体質をめざす。

地球環境の破壊を防ぎ、持続可能な社会構築のために、人々の消費行動へのアプローチを行う事業を新規に実施する。具体的には身近にあるもので使われていないもの、光をあてられていないものを、それを必要とする人に届けることで「もったいない」をなくす物品販売を行う。

4) 人材育成

富良野自然塾はじめ全国各地の自然塾との交換研修等を実施し、プログラムの質の向上に努めるとともに、業務の質を向上させるためのスタッフの資格取得については支援を行う。

インターンシップの受け入れを積極的に行い、次代の人材を育成するとともに、インターンシップを受け入れることでスタッフの成長も促す。